

# 吉野作造記念館だより

<編集・発行>吉野作造記念館（古川市福沼一丁目2番3号 TEL 23-7100）



左より吉野作造, 1人おいて三浦吉兵衛 1919年（大正8）1月5日

〈三浦よし子氏寄贈〉

古川市が生んだ政治学者・吉野作造博士の偉業を顕彰するために建設されました当記念館も、平成七年一月二十九日の吉野博士の生誕の日に開館して以来、早や六年目を迎えました。この間、多くの方々のご愛顧・ご指導を賜り、かつ、ご来館をいただきましたことに対しまして厚くお礼を申し上げます。

吉野作造記念館は、平成九年五月に天皇・皇后両陛下のご視察をいただきました。また、平成十年四月一日から作家の井上ひさし氏に名誉館長への就任をいただき、ご講演やご指導などをいただいております。さらに、郵政省が二十世紀へ残すものとして十七回シリーズでデザイン切手を発行しておりますが、その三回目として平成十一年の十月に吉野博士の肖像画が入った切手が発行されました。

このように吉野作造記念館も着々とその名を全国に発進しております。

今後とも、皆様のご期待に添えますように、そして皆様に親しまれる記念館を目指して、その業績や著書、さらには吉野博士の人となり、生きた時代背景、影響を与えた人物などについて分かりやすく知っていただくことを第一に念頭に入れながら、職員一丸となって事業を進めてまいりたいと思っております。

皆様にはこれまでにも増して、ご支援・ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

# なつやすみ親子教室開催

## — 初の試み —



平成十一年八月二十一日（土）、吉野作造記念館は初の試みとして、なつやすみ親子教室「吉野作造の歩いた場所をたどってみよう」を開催しました。

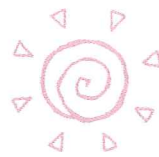
これは、古川市内にある吉野作造ゆかりの場所を徒歩でめぐるといふ企画で、親子十二組にご参加いただきました。

一行は総勢二十三名となり、午前八時五十分、始点の志田郡役所跡（現古川市役所本庁舎）を出発しました。途中、古川第一小学校など十あまりのポイントを通り、午前十一時三十分、終点の吉野作造記念館に到着しました。

当日、市内の最高気温は三十一・五度と大変な暑さでしたが、子供たちを含め、全員が約三時間の道のりを元気に歩きおしました。

### 通過ポイント一覧

- ① 志田郡役所跡（七日町） ※現古川市役所本庁舎
- ② 古川第一小学校（二ノ構） ← 緒絶川
- ③ 緒絶橋（三日町） ←
- ④ 瑞川寺（三日町） ←
- ⑤ 祇園寺技芸専門学校（三日町） ←
- ⑥ 古川座跡（十日町） ←
- ⑦ 吉野作造生家跡（十日町） ← 涌谷横丁
- ⑧ 大崎タイムス社（駅前大通） ←
- ⑨ 荒雄神社（福沼） ←
- ⑩ 吉野作造記念館（福沼） ←



# 吉野作造の歩いた場所をたどってみよう

各ポイントを詳しく紹介します！

## ① 志田郡役所跡

(現古川市役所本庁舎)

吉野作造は明治十一年に生まれました。生家は現在の古川市十日町にありましたが、その辺りは当時、志田郡大柿村という村でした。大柿村はのちに周辺三村と合併して志田郡古川町となります。その郡の政庁である志田郡役所があった場所です。

建物は、大正十五年に郡役所が廃止されたあとも、学校や公民館として利用され、最終的には昭和三十一年、金五輪の祇園八坂神社に移築されて社務所となりました。現在は取り壊されてなくなっています。

## ③ 緒絶橋

緒絶川に架かる、白玉姫の伝説で有名な橋です。現在のものは大正十四年につくられました。緒絶川は古川市の中心市街地を流れています。少年時代の吉野は、この川で魚取りや水浴びをして遊んだことでしょう。

現在、橋の西側には「市民ギヤラリー 緒絶の館」があり、市民の作品発表・鑑賞の場となっています。

## ④ 瑞川寺

吉野作造の両親や兄弟の墓があります。曹洞宗の寺で、山門は室町時代につくられた古川市最古の木造建築物です。吉野自身の墓は、残念ながら古川市ではなく、東京都府中市の多磨霊園にあります。

## ⑤ 祇園寺技芸専門学校

明治十四年、祇園寺きくが私塾として開始した学校です。明治二十九年より、県の許可を受けて私立祇園寺裁縫学校と称し、昭和二十四年に校名を現在のものに改めました。

のに改めました。

古川の女子教育の先駆的役割を担い、これまで多くの卒業生を送り出しました。昭和三十年頃には生徒数が千人を超え、規模は東北随一と言われました。吉野もここへ通う女生生たちを、いつも見ていたのでしょうか。

## ⑥ 古川座跡

明治四十五年建てられた劇場です。回り舞台、花道、升席などを備えた本格的な施設でした。歌舞伎から新劇まで多くの有名な俳優がやって来しました。戦後は映画を中心に興行しましたが、昭和三十四年、国道が建物を貫いてつくられることになり、惜しまれながら取り壊されました。

吉野は大正十三年と昭和三年に、友人や弟子の選挙応援演説のため古川を訪れ、ここで講演を行いました。

## ⑦ 吉野作造生家跡

吉野作造の生まれた家があった場所です。現在は小さな公園に整備されています。

平成十年には古川ロータリークラブが、吉野の言った「人生に逆境はない」という言葉を刻んだ碑を建てました。

## ⑧ 大崎タイム入社

昭和二十二年に創立された新聞社です。古川市を中心に広く大崎全域の情報を手掛けています。

社内には、吉野作造の弟で、運輸大臣などを務めた吉野信次の書(額装)が飾られています。

## ⑨ 荒雄神社

昭和六年、県内でも有数の醸造業を営んでいた青沼彦治が私財を投じて建立しました。菅原道真、楠木正成、和氣清麻呂の三者を祭っています。

隣接する旧荒雄公園も、神社に先立ち、彦治の働きかけでつくられたものです。当時から、人々の憩いの場であり、桜の季節には多くの花見客で賑わっています。

現在公園は拡張され、園内には駐車場やイベント広場、祥雲閣、吉野作造記念館などがつくられています。

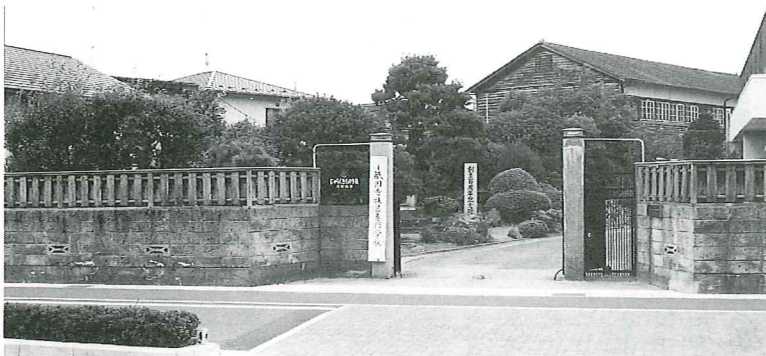
なお、吉野作造の甥・孝雄の妻が、青沼家の出身です。

## ⑩ 吉野作造記念館

平成七年に開館した施設で、古川市教育委員会が管理・運営を行っています。

入り口の右手に、「古川学人

吉野作造之碑」があります。これは、昭和四十一年、吉野先生を記念する会が古川市民会館の敷地内に建立したものです。開館時にここへ移築されました。



祇園寺技芸専門学校  
平成11年8月21日撮影

## 企画展ダイジェスト

## 「宮城の先人からの贈りもの」

## 細川松三郎と

(二八六八—一九一八)

## 山内卯太郎

(二八六〇—一九二七)

古川小学校時代、吉野に大きな印象をあたえたのが細川松三郎だった。細川は当時二十四歳の意欲的な先生だった。吉野ら門人総代が建立した頌徳碑によれば、勉強熱心で日本歴史の源を探るかたわら歴史の歌をつかって児童に教えた。また品評会を開催し農事の発達進歩をうながすなど古川小学校校長として長くつとめた。吉野は一九一六年の著書を、幼い日に歴史への関心呼び起こした細川の靈にささげた。

細川 松三郎



古川第一小学校提供

また当時の校長山内卯太郎は吉野に学問への興味、特に書物への関心を高めた恩人である。

山内は『歴史読本』などを読んで聞かせ「曾我兄弟の話を読んで先生まず涙を含んで声をくもらせ」と吉野も一緒に涙ぐんだ。吉野の読書作文好きが始まった。山内は校長として小学校入学者を増やし、教育講習会の講師を炎暑のさなか連日五時間にとわたりつとめるなど、教育熱心さと人格の良さから生徒や町の人々から慕われ、惜しまれて一九一六年（明治二十九）熊本県に転任した。吉野は上京後も連絡を取り、一九〇九年（明治四十二）十月山内を囲んで古川小学校同窓会を在京メンバー十二人で開いた。

## 大槻文彦と

(二八四七—一九二七)

## 服部誠一

(二八四二—一九〇八)

宮城県尋常中学校（現宮城県仙台第一高等学校）初代校長大槻文彦は、近代的国語辞書『言

海』の著者として歴史に名高い。二年半という在任期間ながら学生たちに与えた影響は大きかった。吉野は作文の成績が良いのを見込まれて大槻から目をかけられる一方、毎週一時間の倫理の講義で「偏狭な島国根性の蒙をひら」かされた。大槻が話したのは、江戸時代に国防の必要を説いた仙台の思想家林子平の伝記だった。大槻は質の高い人材を呼びよせ教育内容の充実に努めた他、生徒をつれて一泊旅行をしたり、学校の新築にたずさわるなど初期の学校経営に力を尽くした。吉野らは卒業後、東京で大槻を囲む会「壬辰旧雨会」を年一、二度開催した。

大槻 文彦



宮城県図書館提供

中学校時代の作文教師のなかで吉野に印象ぶかく残った教師は服部誠一（撫松）である。服部は明治初期に『東京新繁昌記』を書いて一世を風靡したジャーナリストで自由民権運動にかかわった政治活動家でもあった。五十六歳で中学校の作文の教員

として仙台に赴任、十年余りを過ごした。既に和文調の文体を確立していた吉野は、漢文くずしの服部の教えは合わなかったが、その人物には大いにひかれた。服部の教えた漢文は正統なものでなく、難しい熟語を並べ立てて中学生たちを煙にまくようなものだった。その後明治文化研究を始めてから、吉野は明治初期の服部の業績の偉大さに気づくこととなる。

## 押川方義と

(二八五二—一九二八)

## ミス・ブゼル

(二八六六—一九三六)

吉野作造がはじめてキリスト教の説教を聞いたのは中学生時代、押川方義からだ。当時東北学院長で日本キリスト教会派の押川が毎週木曜日講堂で修身講話をしており、吉野は友人と聞きに行ったところ、日清戦争後の風紀の乱れを難するその迫力に驚き、それが第一印象だった。吉野の生涯を支える道徳としてのキリスト教との出会いであった。

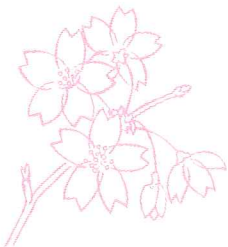
アンネー・S・ブゼルは、アメリカ合衆国に生まれ、二十六歳で宣教師として仙台にきた。尚綱女学校初代校長としてキリスト教教理の講義を教えた。聖書の時間では生徒同士の議論や

論文作成を重視、また育児法という名称で性教育や女性の生き方についての講義も行った。第二高等学校生相手のバイブルクラスからは、吉野たち、キリスト教精神を社会で実践しようとする行動人が出た。吉野はブゼルの還暦祝いの席でブゼルより人生の指針となるキリスト教精神を教わったと述べた。

## 佐々政一

(二八七二—一九二七)

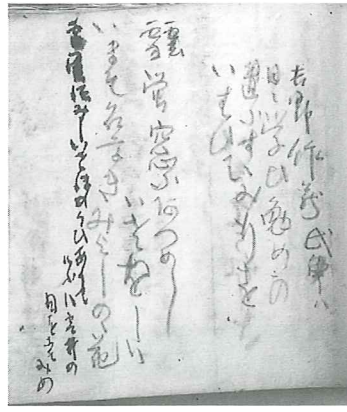
吉野の政治評論の方法に大きな影響を及ぼしたのは第二高等学校時代の国文科教師佐々政一だった。一八九六年（明治二十九）東京帝国大学文科大学を卒業し二十五歳で第二高等学校に赴任、二年半を過ごした。吉野には嶋長明についての評論を書かせた際、三度にわたって丁寧に批評した上書き直しを命じた。自分の考えを長明に即して書いた吉野に、評論とは相手の文章を深く読みこみ研究した上で行うべきだという評論の方法を体得させた。



# 新発見 資料紹介

## 『閑居乃友』

— 櫻井順蔵歌集 —  
櫻井滋郎氏所蔵



表紙

吉野作蔵氏ハ  
日々学ひ勉め  
道にすゝみ行を  
いはひて

雪蛩窓にあつめし

いまそ名高きみよしのゝ花

雪蛩津（積）みしいさほのかひありて

けふハ雲井の  
日をこそみめ

櫻井順蔵（一八六四—一九三三）は吉野作造の恩師にあたります。明治十七年二月より二年八か月の間、古川小学校に勤務していました。

『閑居乃友』は、和紙を綴じた冊子に、順蔵が折々に和歌を詠んで書き付けたもので、順蔵自身が命題しました。歌の内容から、明治二十年代後半より亡くなる昭和八年までに書かれたものとわかります。

右に紹介した二首は、吉野が東京帝国大学に入学したことを祝って詠まれました。

なお、この歌集には、吉野に関してさらに次の一首が含まれており、こちらは吉野が東京帝国大学講師に就任したことを祝って詠まれています。

遠萩の花も咲初て

東路の宮城の野へ（辺）の花すりハ 雲井に匂ふ時ハキにけり

吉野作造主のこたひ雪の功なりて價この試験おいたりと聞て  
いさゝか祝ひの心をよめり

## 平成十一年受贈資料紹介（受贈順、敬称略）

（資料名）

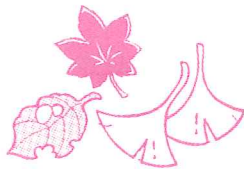
- 『産業自治とギルド社会主義』
- 『我思ふ所』
- 『群山』第五十四巻第一号、第十二号
- 『冬柏』第四巻第六号（複写）
- 『ホームユニオン』昭和九年十二月号（複写）
- 『古川学人吉野作造之碑』落成記念写真
- 『ロッヂデール公正先駆者組合創立一五〇周年記念関係資料集』
- 『古川ロータリークラブ創立三〇周年記念誌』
- 『新聞資料7点』
- 吉野先生を記念する会公會議資料15点
- 『日本二〇世紀館』
- 『県史四 宮城県の歴史』
- 『耶蘇の人格』
- 『叢書名著の復興一 東洋社会党考』
- 『みやぎの女性史』
- 『吉野作造とキリスト教』（『新人』『新女界』の研究）（複写）
- 『本郷教会の人びと』（『新人』『新女界』の研究）（複写）
- 『日露戦争期の吉野作造』（抜刷）
- 『桃山学院大学教育研究所研究紀要』第八号
- 『妖傑 下田歌子』
- 『バリに死す』評伝・椎名其二
- 『女学校関係資料4点（内1点は2部）』
- 『花のまざれに』
- 『教科書（明治）昭和前期』142点（内7点は2部ずつ）
- 『日本の貴婦人』
- 『曾村芳郎あて吉野作造書簡（葉書）』
- 『長沢鼎英文日記（一）』（三）（抜刷）』
- 『新井奥達書「謙虚」（手拭）』
- 『さんりく文庫（一）』小山東助ノート』
- 『秩父事件』
- 『共和政期ローマの国家と社会』
- 『日本の歴史博物館・史跡⑦ 明治・大正・昭和・平成時代』
- 『女性解放思想の歩み』
- 『アルス婦人講座』
- 『風の生涯』（『日本経済新聞』複写）
- 『日本基督教団 陸前古川教会八十五年史』
- 『アジアと日本のルネサンス（共生と民権化）』
- 『参議院の危機を如何に打解すべきか』（複写）』
- 『参議院の機構運営の改革』（複写）』
- 『人民中国』第五百五十一号
- 『東北学院の一〇〇年』
- 『吉野信次書2点（掛軸・扇額）』
- 『周恩来 二十九歳の東京日記』
- 『黎明会記念懐中時計』
- 『隣人の肖像 一発見！周恩来の東京日記』（ビデオテープ）
- 『二〇世紀デザイン切手 第三集』（切手シート）2部
- 『県民百年史四 宮城県の百年』
- 『鼎浦小山東助の人と思想を語る』
- 『鉄幹と晶子』第五号
- 『よい人に恵まれた私』3部
- 『戦後日本の学術図書館政策及び図書館学の展開過程 一馬場重徳文書の組織化と分析』
- 『奥村多喜衛関係資料5点』
- 『猪狩好清関係資料8点』

（寄贈者）

- 佐々木 大知
- 扇上 利枝
- 井上 幸男
- 木村 晴彦
- 協同組合図書館資料センター
- 加藤 晴彦
- 横山 寛勝
- 横山 寛勝
- 宮城県環境生活部女性政策課
- 太田 雅夫
- 平野 敬和
- 桃山学院大学教育研究所
- 横山 寛勝
- 佐佐木 忠慧
- 工藤 正常三
- 中山 勝三
- 横山 寛勝
- 祇園寺 則房
- 祇園寺 則房
- 横山 寛勝
- 横山 寛勝
- 田中 昌亮
- 万城 牧子
- 松尾 立允
- 佐藤 尊夫
- 堀北学院大
- 近江 行光
- 岡田 正光
- 郵政省郵務局手文通振興推進部
- 藤山 川出版
- 鼎浦小山東助顕彰会
- 水野 洋
- 祇園寺 則夫
- 原野 秀成
- 櫻井 滋郎
- 福井 滋子

# 平成十一年事業カレンダー

- 4月28日(水) ～ 6月27日(日) 「開館五周年記念新収蔵資料展」
- 5月1日(土) 「吉野作造・声のライブラリー」開設
- 5月3日(月) ～ 5月5日(水) 映画会  
「ふるかわ」、「魔女の宅急便」ほか上映
- 7月20日(火) ～ 9月19日(日) 企画展「宮城の先人からの贈りもの」
- 8月14日(土) 第一回吉野作造講座 講義(企画展解説を兼ねる)  
テーマ 「吉野に影響を与えた宮城の先人」  
講師 吉野作造記念館主任研究員 田澤晴子
- 8月21日(土) なつやすみ親子教室 「吉野作造の歩いた場所をたどってみよう」  
なつやすみ宿題相談
- 9月11日(土) 第二回吉野作造講座 吉野作造の時代の映画をみる  
「戦艦ポチョムキン」一九二五年  
「伊豆の踊子」一九三三年
- 10月30日(土) 第三回吉野作造講座 吉野作造賞受賞者講演会  
テーマ 「吉野作造と現代の政治」  
講師 東京大学法学部教授 北岡伸一氏
- 11月4日(木) 「吉野作造・声のライブラリー」試聴コーナー設置
- 11月13日(土) 第四回吉野作造講座 名誉館長井上ひさし講演会  
テーマ 「井上ひさしの吉野講座②・③」
- 12月9日(木) ～ 12月15日(水) 小・中学校移動企画展(於 敷玉小学校)



## お知らせ

### 「吉野作造・声のライブラリー」開設中です!

### 試聴コーナーもできました

吉野作造記念館では、平成十一年五月より「吉野作造・声のライブラリー」と銘打ち、吉野の著作を朗読・録音したカセットテープ(一部CDも)を貸し出しています。

テープの制作には古川オフトーク通信(株)のご協力をいただき、朗読は、同社チーフアナウンサーの千葉めぐみさんが行っています。

貸し出しは無料で、どなたでもご利用になれます。

また、同年十一月からは館内にテープの試聴コーナーも設置しています。

この試聴コーナーでは、テープ音声のほかに、それに合わせて作成した映像も見ることができます。こちららもぜひご覧ください。



千葉めぐみさん



「吉野作造・声のライブラリー」試聴コーナー

## 北岡伸一氏講演録 『吉野作造と現代の政治』 近日発行!

平成十一年十月三十日に吉野作造講座の一環として行われた講演会の記録です。吉野作造記念館の窓口で、希望者に無料配布します。